

魚沼市新ごみ処理施設整備検討委員会 協議事項確認リスト

回数	協議事項	状態（決定：○）		指摘事項	備考
第1回	協議内容とスケジュールについて	—	スケジュールの実績の表記については、誤解を招かないように検討中の内容と決定済みの内容が分かるよう記載。	スケジュール表の赤線について、「実績」と表記すると、既に決定されており、再検討できないような印象を受ける。	
	施設の立地条件について	○	提示した立地条件資料に異議なし（第1回委員会資料をベース）。		
	処理方式・施設規模の検討について	○	（処理方式） ストーカ式または流動床式とし、メーカー提案を確認のうえ、令和7年度末までに決定。	・令和7年3月に処理方式を決定すると、参加可能なプラントメーカーに影響が生じ、事業者選定が困難になる可能性がある。 ・将来の焼却灰の処理方法を考慮して検討してほしい。	第2回にて決定。
		○	（施設規模） 可燃 … 46～51 t／日 不燃 … 6.6～7.3 t／日（5h）		
第2回	処理方式の選定について	○	ストーカ式または流動床式		竪型ストーカ式は特定の企業の特許技術のため、公開用資料から削除。
	新分別区分	○	第2回委員会資料をベースに関係者と調整。	・市内及び近隣で産廃処理ができる施設を確認予定。 ・有機センターの方針を確認予定。	資源化（リサイクル）を進めること、プラ新法への対応、施設火災爆発事故防止を重視。
	・ごみ処理量との適合性（炉系列と運転時間） ・准連続との適合性	—	（炉系列） 炉数はメーカー提案を確認後、委員会で発議予定。		2炉を基本とするが、メーカー提案では1炉の提案も可能とする。
		○	（運転時間） 准連続（16h/日）	循環型社会形成推進交付金の交付要件となる年間稼働日数を確認すること（別紙回答）。	施設規模が50t/日程度であれば、16時間（准連続）運転が良いとの意見あり。運転人員削減の観点から全連続運転は不要と考えられる。
	配置計画	—	要求する水準を満たした発注仕様書を提示した上で、メーカーからの提案要素とする。	浸水が想定されることから、災害対応に関して施設の位置付けがなされているか。	施設が備える防災拠点機能を調整中であり、結果により配置計画への影響が考えられる。
	焼却残渣の処理 ・焼却残渣の発生量 ・焼却残渣のリサイクルについて	○	当面、現状維持（県外処理）の方向とする。 ただし、新施設建設とは切り離し、自区内処理の原則の下、市としての考え方を整理する。	・焼却残渣率はどのように算出したのか（別紙回答）。 ・人口減少に伴いごみ量も減少すると焼却残渣も減少すると思われるが、発生量はどの程度か（別紙回答）。	
	計画施設フローについて		提示したフロー（案）に異議はなし。	木材搬入量を提示すること（別紙回答）。	